

「平面の文字を立体に～伝統工芸作品制作～」

優秀賞



福井県 木彫家、篆刻家
岸下 順一

子ども達に木に親しんでほしい、手作りの面白さを知ってほしいと始めた木のおもちゃ作りでした。パズルを作っていて、その形から甲骨文字でも作れるのではないかと気付きました。長年篆刻をしていましたから、その経験がおもちゃ作りに役立つ事になりました。他の玩具も古代文字形で作れるのではないかと試してみますと、歩行玩具・バランス玩具など、今まで見たことの無い多種類の作品を作ることができました。

この受賞を機に古代文字形の作品があることを知って頂き、一層古代文字に親しみ、興味を持って頂くきっかけになると嬉しい事です。

1 実践の概要

漢字の古代文字に興味・関心を持ってもらうことを目的として、自分の名前の古代文字の印作り(消しゴム・石印材)、古代文字をテーマにした木のおもちゃ作りを中心に活動している。これらのワークショップでは、準備された作品を参考にして、受講者自身が作り、それを使って実際に遊び、使用することで一層興味を持たせるようにしている。

2 実践の内容

(1) ワークショップ 「印作り」

これまでに県立図書館で蔵書印講座講師を15年以上、近年は、県立こども歴史文化館などでも講師を務めている。自分の名前や干支の漢字の古代文字を調べ、簡単な一字印を制作している。身近で彫りやすい消しゴムや石を印材に用いて作成し、完成後はTシャツやコースターに押印するなど、子どもから大人まで楽しめるように工夫してきた。



(2) ワークショップ 「古代文字パズル作り」

無垢の木やベニヤ板で「心」「目」「人」など24の古代文字を作り、知恵の輪の要領で遊べる20種類のパズルを考案。その古代文字パズル作りでは、子どもが自ら制作したものを家族と解いたり、古代文字の形から漢字の成り立ちを紹介したりして、和やかに談笑する様子が見受けられた。



(3) ワークショップ 「古代文字おもちゃ作り」

重心移動の原理を利用して坂道を下り歩く歩行玩具を制作し、子どもたちに紹介した。この歩行玩具は、鳥やうさぎの古代文字の形をしており、コッチンコッチンと坂道を下り歩く様子が愛らしく、子どもたちに人気があった。

3 実践の成果

一般的には、漢字教育は成り立ちを教えたり辞書で調べたりする講義形式が主であるが、工芸と結び付け、手を動かして作り実際に使い遊ぶことによって、記憶に残り、漢字に興味を持たせることができる。文字は平面、普遍性が常識であるが、立体となりしかも動き、そして遊べるということは子どもたちを引き付ける魅力があり、その効果は大きい。木の温もりを感じながら、漢字を楽しく学んでほしい。